

はこだてしうすじりしょうがっこういせき
函館市白尻小学校遺跡（登録番号 B-01-257）

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市白尻町340-4

調査主体：函館市教育委員会（調査担当者 吉田 力，野村祐一）

調査実施：一般財団法人 道南歴史文化振興財団（調査担当者 黒沢健明）

調査期間：令和5年7月18日～令和5年11月27日

調査面積：384㎡（Ⅲ層），384㎡（Ⅴ層）

調査の概要

遺跡は、函館市白尻町に所在する白尻漁港西隣へと注ぐ無名小河川の上流，海岸線からの直線距離約300m，標高約30～35mの小河川左岸の海岸段丘上緩傾斜地に位置する。昭和44年に白尻小学校改築中にストーンサークルが発見・調査された場所は本調査区から約200m山側に離れた標高約50mの旧白尻小学校校舎のある地点で，そこからさらに山側の国道278号の通る標高約60～70mの地点が平成16・17・19年に調査されている。今年度調査区は令和3年度調査区と令和4年度調査区の間である市道白尻小学校1号線の直下にあたる。白尻漁港臨港道路工事に伴う調査では本遺跡を3年間でⅢ層1,967㎡，Ⅴ層1,545㎡を調査したことになる。

調査は，並行して行われる地盤改良工事との兼ね合いから1・2区と分割し，それぞれ駒ヶ岳d火山灰（1640年降灰）・白頭山-苫小牧火山灰（947年降灰）下層のⅢ層（縄文時代前期以降-続縄文時代の遺物包含層）と，駒ヶ岳f・g火山灰（約6,300～6,500年前降灰）下層のⅤ層（縄文時代早期の遺物包含層）について実施している。

遺構と遺物

Ⅲ層調査 遺構は，土坑22基，焼土1カ所，礫集中1カ所を検出した。土坑は貯蔵穴とみられるフラスコ状土坑や、副葬品とみられる遺物を伴う土坑墓と考えられるものも確認している。土坑墓とみられるものには晩期の土器を伴うものや，紐状の漆塗り製品を伴い周溝が巡る中期と考えられるものがあつた。

遺物は土器が縄文後期（鯨潤式），晩期（大洞C2式古段階）が主体的に出土しており，これまでと同様の傾向であつた。石器類は石鏃，スクレイパー，石錐石斧，擦石，砥石などが出土しており，遺物総数は約10,000点である。

3年間の調査を合計すると，遺構は竪穴建物跡15軒，竪穴状遺構1基，土坑81基，焼土14カ所，屋外炉2基，埋設土器4基，剥片集中2カ所，礫集中1カ所

で、遺物は土器・石器が約120,000点、その他に骨・貝の自然遺物が出土している。

V層調査 遺構は土坑1基、焼土1カ所を検出した。

土器は縄文早期のムシリI式や東釧路IV式が出土している。石器は石鏃、つまみ付ナイフ、石斧、石錘、石製品などが出土しており、遺物総数は約500点である。

3年間の調査を合計すると、遺構は竪穴状遺構1基、土坑2基、焼土11カ所、剥片集中2カ所で、遺物は約6,000点出土している。



白尻小学校遺跡の位置と周辺の遺跡分布図



調査区遠景（南から）



1区Ⅲ層完掘状況（右が北）
北）



2区Ⅲ層完掘状況（右が



1区Ⅴ層完掘状況（右が北）
北）

2区Ⅴ層完掘状況（右が





Ⅲ層 P-71 遺物出土狀況



Ⅲ層 P-80 遺物出土狀況



Ⅲ層 P-80 出土漆塗製品 (擴大)

Ⅲ層石鏃出土狀況





Ⅲ層土器（晩期）出土状況

Ⅴ層調査風景



Ⅴ層石斧出土状況

Ⅴ層つまみ付ナイフ出土状況